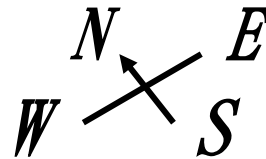


2017年6月1日

第277号

藤沢 エコネット

藤沢環境運動市民連絡会議
(略称) 藤沢エコネット



<http://econet2015.sakura.ne.jp>

事務局 e-mail: aoyagipc@jcom.home.ne.jp 青柳

FAX 0466-87-4922

主
な
記
事

- ・2016 年度活動報告及び決算 新年度活動方針
- ・武田薬品研究所の改変
- ・放射能測定値
- ・気象情報ジェット気流にまつわる話 12

藤沢南部の津波対策で大論争を！

～津波ハザードマップ改訂と浸水地域における学校建設是非～

大震災以後、全国で津波浸水のハザードマップの改訂がされ、ここ藤沢でも 2014 年の 2 月に、「慶長型地震と関東大震災」を基にした津波ハザードマップが全戸配布された。私たち住民は「街づくりを考える会」を発足し、地域の街づくり経営会議の報告や先進的町内会の取組の報告もふまえて、避難ビル・避難路の整備を検討してきた。

不幸なことに上記津波ハザードマップの配布の 1 年後に、国・県はこれまでの津波最大の想定を、慶長型地震から「相模トラフ西側モデル」に変更した。藤沢南部の津波の高さ、浸水範囲、津波到達時間は、以前が、それぞれ 10.7m、4.0 km²、10 分以内 だったものが、今度のモデルでは、11.5m、4.9 km²、12 分と変更された。特に辻堂西海岸・辻堂東海岸地域の津波高さ到達時間は、慶長型が 7.8m、89 分(関東大震災では 10 分以内)であったものが、新想定では、8.8m、8 分 に変更され、これにより浸水地域はこれまでの海拔約 4m から海拔約 6m 位まで浸水域が拡大した。

地域の多くの住民の認識は 3 年前に配布された旧ハザードマップのままだ。新ハザードマップの住民配布は急務だ。

藤沢南部のこの新津波浸水想定域の中に、保育園・幼稚園が 5 園、小学校 4 校、中学校が 2 校ある。福祉施設太陽の家もある。そのうち小中学の整備方針は、いずれも 3 年後の 2020 年からようやく検討に入るとの意向だ。但し、引地川南端の鵜南小だけは特別で、やはり近くの津波が心配な浜見保育園と児童クラブと共に合築する基本構想案が近く公表される。

私どもは、津波想定がこれだけ広がった下で、これではより南部浸水地域への施設集中になること、公共施設の建て替えの際にはより北側に建てるべきと考える。今後の学校施設などの建て替えについて、住民の中での大討論を望む。

(街づくりを考える会 木下 薫)



絵画「津波」山内若菜氏提供

藤沢エコネット2016年度活動報告

東日本大震災福島第1原発事故から6年、2017年4月から帰還困難区域・居住制限区域を除き、飯館村、富岡町など避難指示が解除されたが、帰還は始まったばかりである。避難者はいまだ福島県内外に7万人、福島県の子どもの甲状腺がんは183名に上り、放射能の影響を避けるための保養活動が求められている。

もんじゅ・常陽を入れ、原発59基のうち、原発ゼロだった約2年間の後の2015年8月、九州電力川内原発2号機が再稼働。続いて川内原発1・2号機と四国電力伊方原発3号機そして2017年5月に高浜原発も再稼働して計4基が稼働している。廃炉費用見積もりが8兆円に上り、福島廃炉・賠償費用が合計21兆5千億円に倍増。新電力からも賠償費用の一部を負担させるといふ。原発は最大に費用が掛かる不経済の代物と言える。

地球温暖化防止のために再生可能エネルギーが求められている。地産地消エネルギー藤沢市民の会は（一社）ふじさわサンエナジーを立ち上げ、市民共同発電所を2017年3月にDIO（Do it Ourselves）手法で設置した。

最近武田薬品湘南研究所は土地など一部を売り、別の会社を内部につくるなど変化しており、安全・安心な研究体制が保てるか監視を強める必要がある。

藤沢西北部で大型開発が進行している現状を見学した。700億円以上も使って大企業に有利な開発をし、緑が失われているのではないかとの声が聞かれた。

藤沢の空気を考える会で、大気汚染（NO₂）調べを年2回行った。平均は環境基準を達成したが、喘息が年々増加している。NO₂の環境基準やPM2.5などに問題があると思われる。

（1）脱原発の活動

◆放射能測定 毎月身近な公園、建物などの空間放射線量を測定し、ニュースに掲載。空間放射線量は0.024～0.085マイクロシーベルト/時間で、ビルの下階より上階の方が高かった。ビルのエレベーター前は高い傾向があった。

◆10/17「放射能焼却灰のゆくえ」辻堂浄化センター見学会。昨年放射能汚染焼却灰の入った大量のフレコンバッグは千葉の中間貯蔵施設へ運んで少なくなっていた。現在業者が汚染度になり、出荷している。受け入れられる

◆保養活動 2016/7/27～31および2017/3/29～4/2：年2回福島の子どもたちとともに・湘南の会が保養活動を行い、延べ80名を招いた。子どもの健康に不安が見られた。

「いのちかながわ」保養団体の連絡会に参加し、国へ

〈藤沢エコネットニュース277号〉

の支援要請をおこなった。

（2）地球温暖化防止活動

◆2016/10：地産地消藤沢市民の会が（一般社団法人）ふじさわサンエナジーを設立し、3月市民共同発電所第1号機をマンションの上にDIO方式で設置した。

（3）大気保全活動

◆6月と12月に藤沢の空気を考える会でNO₂大気汚染調査、年1回のぜん息調べをおこなった。北部方面の喘息学童が多い。夏冬ともにNO₂平均は環境基準をクリアしたが、大庭隧道など依然として大気汚染は深刻である。旧基準0.02ppm以下でないため、ぜん息は減少せず増加傾向である。基準を元に戻すことが求められる。

◆2016/5/19「大気汚染と健康」講演会開催。講師野本哲夫氏、山内幹郎氏、小林麻須男氏。藤沢北部は死亡率が高い。

（4）バイオハザード予防活動

◆武田問題対策連絡会の活動

- ・8/27：総会と講演会「IPS細胞について」講師新井秀雄氏
- ・2016年4月から京都大学のIPS細胞研究部門と武田薬品が共同研究を始めた。
- ・11/28 漏えい事故5周年門前行動を行った。
- ・武田薬品工業は湘南研究所の敷地や研究所の一部を売却し、人員整理するなど経営体制が目まぐるしく変わり、安全・安心研究体制がどうなるか注目する必要がある。周辺ウォッチングをする。

（5）開発問題その他

◆1/24 大船フラワーセンター見学 研究や苗を育てるための1haの関谷分室や熱帯植物用温室が廃止されると聞き、見学した。豊かな植物園となっており、癒しの場、子育て・教育の貴重な場となっている。

◆3/25 藤沢西北部開発現地見学会 西北部の健康と文化の森、新産業の森、2-3地区土地区画整理事業の実態を見学。778億円もの2-3地区大型開発は必要なのか、住民のためになるのかの疑問がでた。

（6）市内環境情報交換活動

◆11/12 藤沢市環境フェアに展示参加。実行委員として準備協力した。

◆ニュース4月号（263号）～3月号（274号）発行。毎月約400部。環境情報交換のためにニュースを発行し、ホームページを開設している。ニュースは毎月創刊以来休みなく発行。寄稿を募集し、なるべくいろいろな人に書いていただくよう、配慮している。

◆HPは、ニュース前月号までを掲載している。

◆メールでニュースを送るWEB会員制度を開設した。

2017年度 活動計画(2017. 4～2018. 3)

2017年5月、憲法施行70年の節目を迎えたが、平和憲法は今や危機的状況となった。平和安全法制(戦争法)が2015年9月19日に成立、2016年3月に施行され、憲法違反の、集団的自衛権の行使、自衛隊の海外派遣が可能となり、2017年5月1日、海上自衛艦が初の「米艦防護」の任務についた。戦争は最大の環境破壊、人権破壊である。

5月17日、関西電力高浜原発が再稼働、現在4機が稼働中である。原発は処理不可能の廃棄物を日々吐き出し、原発事故は回復不可能の環境汚染となる。

藤沢エコネットは「人間が住むにふさわしい環境都市藤沢の実現」にむけて、藤沢市内外で活動する市民の活動と情報の交流及び共通する課題での共同の場をつくる活動を行う。

- ・例会・事務局会議 毎月1回
- ・ニュース発行 毎月1回 WEB 会員に送付
- ・ホームページ更新 環境情報発信 毎月ニュース前月号までを掲載
- ・環境講座開催 春 藤沢の自然環境保全学習会
夏 観察見学会 秋 映画上映 冬 学習会
- ・ふじさわ環境フェア参加 藤沢市環境フェアの企画委員会メンバーとして取り組む。展示など参加。

・共通する課題での活動

- 地球温暖化防止・自然エネルギー問題
- 脱原発活動 ○平和問題 ○開発問題
- 大気問題 ○環境影響問題 ○ごみ問題 ○他

2016年度決算報告及び予算案

収入の部

科目	決算額	備考	17年度予算案
繰り越し	86,010	繰り越し	43,988
会費	115,000		140,000
寄付収入	28,500	寄付	20,000
事業収入	12,600	講座参加費	26,012
合計	242,110		230,000

支出の部

科目	決算額	備考	17年度予算案
講師謝礼	13,000	2回	40,000
会場費	6,710	会議室等	15,000
印刷費	25,350	印刷コピー	33,000
通信費	125,809	メール便FAX	130,000
消耗品	9,695	封筒ラベル等	10,000
雑費	17,558	広告ほか	2,000
次期繰越	43,988		
合計	242,110		230,000

武田薬品湘南研究所の改変について!!

大きな期待を持ってスタートした巨大なバイオ研究所で。巨額の資金を投下して大型M&Aを続けた経営陣はこの研究所を大きく変貌させるようです。新薬の創出を短期間で達成することは難しいことと思いますが、外国人が大半を占める経営陣が湘南研究所のR&Dの低生産性を指摘し、大胆な改革に乗り出したともいえるのでしょうか；

平成29年1月半ば衝撃的ニュースが日本経済新聞一面に掲載されました。

湘南研究所の研究員が現在の3分の1程度になる見通しで、1000人規模から300～400人に減るとのこと。米国拠点への異動やグループ新会社への転籍、退職などが理由。ウエバーCEOが昨年7月に発表した湘南研究所の重要性は益々増大するとのコメントとは著しく異なる情勢です。研究員縮小について3月18日の藤沢市議会委員会で取り上げられ、また当会でも研究所に直接質問をおこないましたが、あくまでも日経紙が報道したことで武田薬品は数字等の公表は行っていないと紋切り型の回答に終始しています。一方、武田薬品はニュースリリースで複数の新会社の設立を発表、その中で、湘南研究所内に本社を



おき、研究所機能を併用する会社の存在も記しています。さらに、創業支援の子会社も含まれています。このような研究所体制の激変の状況下で、自治体と結んだ「環境保全協定」の遵守に基づく安心・安全な管理体制がゆるぎはないか憂慮されます。推移を注意深く監視していきます。

研究員の縮小や安全管理体制に関して、今年度の3者連絡会議において議題として取り上げ武田薬品より回答を得ることを藤沢市環境部に要請しました。回答あり次第報告いたします。

iPS細胞に係る共同研究(T-CiRA)に関しては徹底した情報公開を要望し、近隣住民向け説明会等の開催を求めています。引き続き注視していきます。また、この組織の研究員の数の方の動向の発表を求めています。

空いた研究室のレンタルラボ(貸し研究室)としての使用を強く規制するよう、また神奈川県バイオテクノロジー指針に係る届出と遵守を十分監視するよう自治体・武田薬品に求めています。

(武田問題対策連絡会共同代表 福岡秀治)

ジェット気流発見にまつわる話

(シリーズ12 風船爆弾の製作)

風船爆弾が風に流される経路の推定だけでなく、素材の和紙の品質管理(当初海軍は風船の材質にゴムを使ったが、製作時のコストの問題と重量が増す点で不利な部分が多く、後に陸軍が主導して和紙を素材に使用し、これが大量生産されるようになる)、接着剤としてのコンニャク糊の製法、表面のコーティング技術、ガス漏れを検知するシステムの構築、作戦の目的や放球を悟られないための情報管理(発射基地を人里離れた太平洋沿岸部に複数箇所設け、近隣の住民に知られないように放球する必要があった)など、全て高度な計画性と厳格な管理のもとで実行された。

冬期の強い偏西風が現れる期間に、集中的かつ効果的な攻撃を決定する必要があった。1944年から翌年にかけての冬期に、1万発の風船爆弾を放球することが決まった。気球の素材は和紙で、1個の風船が全部で600個の紙片で構成されていた。和紙を貼り合わせる糊の素材にコンニャクイモを使ったが、食糧難の時期に苦しい判断だったに違いない。

風船の漏れを検査するために、室内で約直径10cmに膨らませる必要があり、生産個数が増えるに従って、建設費用を節約するために日劇ミュージクホールや国技館が提供された。大量生産のために数千人の女子学生が製作作業に関わったが、作戦の情報が漏れぬよう厳しく統制された。

林 陽生(NPO シティ・ウォッチ・スクエア理事長)

放射能測定値(市民計測)

(HORIBA Radi) 単位($\mu\text{Sv/h}$)

5/9	湘南藤沢徳洲会病院 1F 精算機前	0.069
5/9	湘南藤沢徳洲会病院 2F	0.026
5/27	こぶし荘入口	0.055
5/27	川 ホール	0.060
5/29	辻堂海浜公園 プール入口	0.064
5/29	辻堂海浜公園 中央入口	0.045

★震災復興支援コンサート

～放射能から子どもを守ろう～

日時 6月25日(日) 13:30-

藤沢市民会館 第一展示ホール

チケット¥500 中学生以下無料

主催:実行委員会 ☎0466-33-2248



★消費生活講座 ゆで卵と生卵どちらが長持ちする?

6月15日(木) 14:00-15:30 参加費無料

湘南NDビル 講師:徳江千代子氏

問合せ 藤沢消費生活センター

★福島でガレキ焼却 子どもの心臓疾患

横浜のゴミ・下水汚泥の焼却場の風下でも?

講演/木村健一郎さん(杉並大気汚染測定連絡会)

6月17日(土) 14:00- ¥500

横浜市民活動支援センター4F

主催:横浜・ゴミを考える連絡会 045-892-6898

★映画「日本と再生」&トーク 飯田哲也氏

6月27日(火) 10:30- 参加費 800円

会場:ミューザ川崎市民交流室(川崎駅より3分)

主催申し込み パルシステム神奈川ゆめコープ

☎045-470-4172 fax03-4570-5922 100名

藤沢エコネットから

◆新年度になりました 会費の納入をお願いします

会員募集=年会費・購読料→2000円

ゆうちょ銀行 (9900) 店番 (029)

当座預金 0046501 73710ネット

◆事務局会議 6月9日(金) 10:00

市民活動推進センター



《編集後記》数年前ホテル見物に行った。飛び交う青白い光に魅了された。人と生きものたちが共存できる里山は少なくなっているが田んぼもまだ藤沢にはある。住民の努力で保全されてきた。6月は「世界環境デー」が6月5日と定められ。環境省は事業者や国民に広く啓発活動をする環境月間だという。みどりや里山の保全、住みよい環境を作り守っていく活動や啓発はもっとしていかななくてはなるまい。(H)